

腎臓内科

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

医師

科 長（教授）	森下 義幸
医 員（教授）	大河原 晋
（准教授）	平井 啓之
（講師）	伊藤 聖学
（助教）	宮澤 晴久
病院助教	北野 泰佑
	矢内 克典
シニアレジデント	8名
大学院生	1名
非常勤医員（講師）	2名
副 手	1名
非常勤医員	3名

2. 各診療科の特徴

当院の腎臓内科の特徴は、検尿異常患者の精査、慢性腎炎やネフローゼ症候群に対して腎生検を含む検査と治療、慢性腎不全保存期の管理、内シャント作成・経皮的シャント拡張術（PTA）・腹膜透析カテーテル挿入を含む透析導入・慢性維持透析の合併症治療など、すべての病期の慢性腎臓病患者の治療を総合的におこなうことである。さらに、急性腎不全の管理、術後などに合併する電解質異常の管理など腎臓病全般にわたる総合的治療をおこなっている。

また、中央部門である透析部の維持管理も行っている。透析部は血液浄化センターとしての機能も果たしており、透析導入患者や慢性維持透析患者の合併症治療に加え、ICU・CCUでの持続的血液濾過法の管理、単純血漿交換療法、二重膜濾過血漿交換法（DFPP）、血液吸着療法、顆粒球除去療法などの特殊血液浄化療法、血液疾患の治療で行われる血液幹細胞移植時の末梢血幹採取など、幅広い血液浄化療法を管理している。

認定施設

- 日本腎臓学会研修施設
- 日本透析医学会認定施設
- 日本急性血液浄化学会認定施設

専門医

日本内科学会専門医	11名
日本内科学会指導医	7名
日本腎臓学会専門医	10名
日本腎臓学会指導医	7名
日本透析医学会専門医	11名
日本透析医学会指導医	4名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 外来、入院患者の内訳

新患患者は373名、再来患者数は17,139名であった。入院患者は647名であった。入院患者は透析導入患者、腎生検患者、手術患者、ネフローゼ患者、IgA腎症患者、合併症併発透析患者など幅広く腎臓病患者診療をおこなった。

2) 腎生検

総数は98件であった。

3) 腎代替療法導入

新規腎代替療法導入総数は120名で、血液透析110名、腹膜透析10名であった。

4) 腎臓内科患者の手術症例

内シャント作成術	103
経皮的シャント拡張術（PTA）	127
腹膜透析カテーテル挿入術	11
抜去・出口部変更・閉塞解除	13

4. カンファレンス

火曜日午後4時00分から入院患者カンファレンス、腎生検カンファレンス、透析カンファレンス、医局会を行っている。

5. 研究、学会活動など

原著論文（英文）

1. Sunagawa K, Hirai K, Sunagawa S, Kamiya N, Komesu I, Sunagawa Y, Sunagawa H, Nakachi K, Hirai A, Ookawara S, Morishita Y. Efficacy and Safety of Adding Empagliflozin to Liraglutide on Renal Function in Patients with Advanced-Stage Type 2 Diabetic Kidney Disease: A Randomized Controlled Trial. Diabetes Metab Syndr Obes. 2024 Oct 14;17:3767-3781. doi: 10.2147/DMSO.S471535.
2. Hirai K, Kitano T, Nakayama K, Morita F, Satomura H, Tanaka T, Yoshioka T, Matsumoto M, Kimura Y, Shikanai T, Sasaki K, Zhang Z, Ito K, Ookawara S, Morishita Y. Approximation of Glomerular Filtration Rate after 1 Year Using Annual Medical Examination Data. J Clin Med. 2024 Jul 18;13 (14):4207. doi: 10.3390/jcm13144207.
3. Ookawara S, Ito K, Sasabuchi Y, Ueda Y, Morino

- J, Kaneko S, Mutsuyoshi Y, Kitano T, Hirai K, Morishita Y. Hepatic Oxygenation Changes and Symptomatic Intradialytic Hypotension. *Kidney Blood Press Res.* 2024;49 (1):368-376. doi: 10.1159/000539277.
4. Hirai K, Shimotashiro M, Okumura T, Ookawara S, Morishita Y. Anti-SARS-CoV-2 Spike Antibody Response to the Fourth Dose of BNT162b2 mRNA COVID-19 Vaccine and Associated Factors in Japanese Hemodialysis Patients. *Int J Nephrol Renovasc Dis.* 2024 May 17;17:135-149. doi: 10.2147/IJNRD.S452964.
 5. Nagao N, Yabe H, Hirai K, Hiruta M, Ookawara S, Morishita Y, Nagashima T. Case report: Minimal change nephrotic syndrome in a patient with juvenile temporal arteritis and eosinophilia. *Int J Rheum Dis.* 2024 May;27 (5):e15169. doi: 10.1111/1756-185X.15169.
 6. Hirata M, Ito K, Ookawara S, Tanno K, Morino J, Minato S, Mutsuyoshi Y, Kitano T, Hirai K, Morishita Y. Factors Affecting Psoas Muscle Mass Index in Patients Undergoing Peritoneal Dialysis. *Cureus.* 2024 Mar 17;16 (3):e56347. doi: 10.7759/cureus.56347.
 7. Hirai K, Shimotashiro M, Okumura T, Ookawara S, Morishita Y. Anti-SARS-CoV-2 spike antibody response to the third dose of BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine and associated factors in Japanese hemodialysis patients. *Kidney Res Clin Pract.* 2024 May;43 (3):326-336. doi: 10.23876/j.krcp.23.121.
 8. Watanabe Y, Hirai K, Hirata M, Kitano T, Ito K, Ookawara S, Oshiro H, Morishita Y. Steroid-resistant minimal change nephrotic syndrome associated with thymoma treated effectively with rituximab following thymectomy and cyclosporine: a case report. *BMC Nephrol.* 2024 Feb 9;25 (1):53. doi: 10.1186/s12882-024-03485-2.
 9. Nakai S, Ito T, Shibata K, Ozawa K, Matsuoka T, Maeda K, Ohashi Y, Hamano T, Hanafusa N, Shinzato T, Ookawara S, Masakane I. Body fluid volume calculated using the uric acid kinetic model relates to the vascular event. *J Artif Organs.* 2024 Sep;27 (3):253-260. doi: 10.1007/s10047-023-01421-z.
 10. Morino J, Hirai K, Morishita Y. A case of post-renal acute kidney injury caused by bilateral ureterolithiasis. *Clin Case Rep.* 2024 May 12;12 (5):e8825. doi: 10.1002/ccr3.8825.
 11. Morino J, Hirai K, Morishita Y. A case of spontaneous lumbar artery rupture presenting with retroperitoneal hematoma and extensive subcutaneous hemorrhage. *Oxf Med Case Reports.* 2024 Mar 25;2024 (3):omae008. doi: 10.1093/omcr/omae008.
- 学会発表
第69回日本透析医学会学術集会
2024年6月7日(金)～9日(日)、横浜市
1. 宮澤 晴久, 森野 諄紀, 金子 昌平, 伊藤 聖学, 大河原 晋, 森下 義幸. IHDFへのモード変更により肝臓内局所酸素飽和度が維持され, 透析低血圧が予防できた一例. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page845.
 2. 森野 諄紀, 永池 侑樹, 渡邊 祐作, 澤田 明宏, 平井 啓之, 大河原 晋, 真鍋 徳子, 森下 義幸. 血液透析導入期に発症した特発性腰動脈破裂の1例. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page747.
 3. 大河原 晋, 睦好 祐子, 宮澤 晴久, 植田 裕一郎, 伊藤 聖学, 森下 義幸. 肝臓内局所酸素飽和度測定と透析低血圧予知. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page553.
 4. 平井 啓之, 下田代 雅子, 園田 時男, 奥村 俊明, 大河原 晋, 森下 義幸. 血液透析患者における新型コロナウイルスワクチン4回目接種に対する液性免疫応答および関連因子の検討. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page469.
 5. 中井 滋, 新里 高弘, 青木 猛, 大河原 晋. 透析患者の至適体液量を測定する-体組成分析vs.循環動態分析-尿酸動態モデルから至適体液量を探る. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page364.
 6. 大河原 晋, 伊藤 聖学, 平井 啓之, 森下 義幸. 透析患者の至適体液量を測定する-体組成分析vs.循環動態分析- 臓器内局所酸素飽和度変化からみた体液量適正化の意義と透析低血圧発症の予知. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page364.
- 第67回日本腎臓学会学術総会
2024年6月28日(金)～30日(日)、横浜市
1. 田部井 薫, 大河原 晋, 伊藤 聖学. 精神的ストレスが腎機能を悪化させる? 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page668.
 2. 田部井 薫, 大河原 晋, 伊藤 聖学. RAS系阻害薬中止により腎機能悪化が抑制される症例がある. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page668.
 3. 矢内 克典, 三好 千晶, 賀来 佳男, 平井 啓之, 大河原 晋, 森下 義幸. 腎機能障害を合併した高尿酸血症患者におけるドチヌラドの有効性と関連因子の検討. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page653.

第54回日本腎臓学会東部学術大会

2024年9月27日（土）～28日（日）、宇都宮市

1. 湯山 康介, 宮澤 晴久, 岡本 祥果, 平井 啓之, 大河原 晋, 森下 義幸. 腎生検にて診断しえた血管内大細胞型B細胞リンパ腫の一例. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page946.
2. 渡邊 祐作, 岡本 航, 鈴木 萌香, 平井 啓之, 大河原 晋, 森下 義幸. リツキシマブが奏効した胸腺腫合併微小変化型ネフローゼ症候群の1例. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page943.
3. 野中 宏晃, 宮澤 晴久, 伊藤 聖学, 平井 啓之, 大河原 晋, 森下 義幸. 保存期CKD患者の腎性貧血に対するHIF-PH阻害薬（エナロデュスタット）の使用経験. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page649.
4. 伊藤 聖学, 大河原 晋, 杉山 倫子, 睦好 祐子, 北野 泰佑, 下山 博史, 植田 裕一郎, 中里 優一, 森下 義幸. 透析用内シャントPTA前後における脳内および手掌局所酸素飽和度に関する検討. 日本腎臓学会誌 (0385-2385) 66巻4号 Page621.

第52回埼玉透析医学会学術総会

2024年12月8日（日）、さいたま市

1. 猪野瀬 渚, 村瀬 美穂, 大河原 晋, 森下 義幸. 術後AKI患者に対して、ICU管理栄養士が栄養管理介入を行った一例. 埼玉透析医学会会誌 (2187-0292) 13巻2号 Page96.
2. 齊藤 博司, 伊藤 聖学, 大河原 晋, 森野 諄紀, 北野 泰佑, 宮澤 晴久, 平井 啓之, 森下 義幸. 嚢胞感染を繰り返す多発性嚢胞腎に対して、根治的腎摘出術により再発抑制が得られた一例. 埼玉透析医学会会誌 (2187-0292) 13巻2号 Page95.
3. 小藤 誠也(自治医科大学附属さいたま医療センター臨床工学部), 伊藤 聖学, 梅田 千典, 岡田 ひとみ, 谷中田 佳昭, 草浦 理恵, 森野 諄紀, 睦好 祐子, 北野 泰佑, 宮澤 晴久, 神尾 直, 方山 真朱, 平井 啓之, 大河原 晋, 森下 義幸. 集中治療部門への入室を必要としたCOVID-19陽性患者の持続的腎代替療法を含む生命維持管理装置の使用状況について. 埼玉透析医学会会誌 (2187-0292) 13巻2号 Page90.
4. 平井 啓之, 下田代 雅子, 奥村 俊明, 大河原 晋, 森下 義幸. 血液透析患者における新型コロナウイルスワクチン4回接種後の抗体価と関連因子に関する検討. 埼玉透析医学会会誌 (2187-0292) 13巻2号 Page89.
5. 渡邊 祐作(自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科), 千葉 知史, 森野 諄紀, 永池 侑樹, 山本 林佳, 伊藤 聖学, 桑原 道雄, 大河原 晋, 森下 義幸. Aperta NSE PTAの使用経験. 埼玉透析医学会会誌 (2187-0292) 13巻2号 Page88.

6. その他（アピールする点、ニュース、今後の活動目標）

腎臓内科では医師、栄養士、薬剤師、透析部看護師が医療チームを作り、総合的に腎疾患患者診療を行う体制をセンター内で構築している。センター外に目を向けると、近隣医療機関との連携の下、腎疾患診断のための腎生検、透析療法導入のためのアクセス作成・透析用カテーテル留置術の施行・腹膜カテーテル挿入術の施行、さらには維持血液透析のアクセストラブルに対する血管内治療、など、内科系診療科に属しているものの、数多くの外科的手技にも対応していることが特徴として挙げられる。今後も腎臓内科としての医療レベルの向上に努めて参りたいと考えている。